

2018年 12月期

第3四半期決算資料



ダイトロン株式会社

証券コード：7609

連結決算概要について (業績結果および業績予想)



第3四半期累計実績

■ 売上高 **42,632百万円**

(前年同期比 **111.4%**)

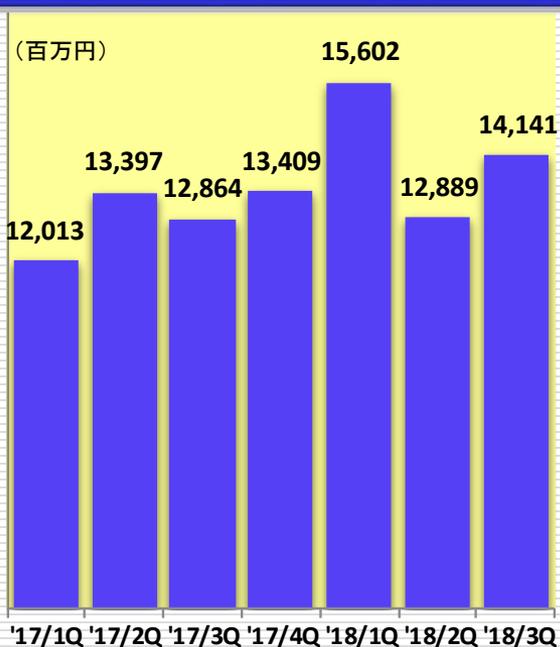
■ 営業利益 **2,465百万円**
(前年同期比 **122.0%**)

■ 経常利益 **2,520百万円**
(前年同期比 **122.9%**)

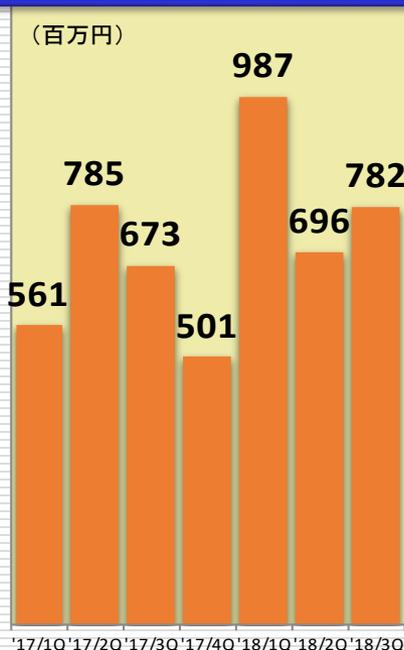
■ 四半期純利益 **1,755百万円**
(前年同期比 **123.0%**)

四半期業績の推移グラフ

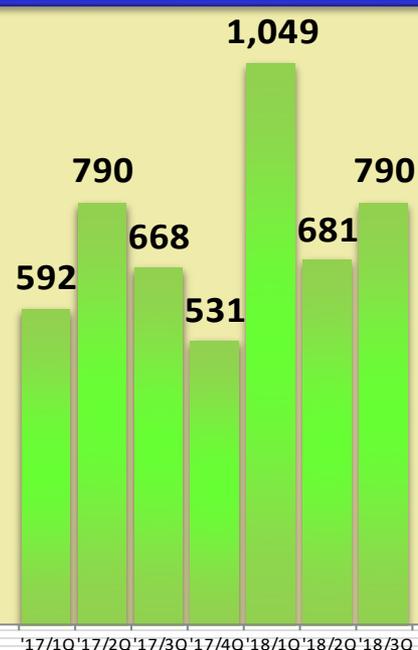
売上高



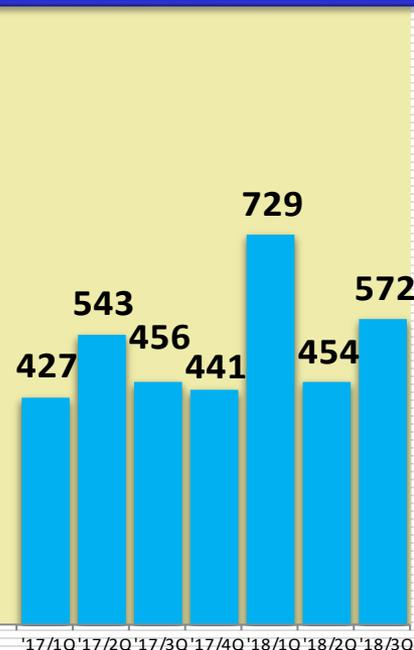
営業利益



経常利益



四半期純利益



連結業績概要

前年同期比較



(百万円)	2017年12月期 第3四半期累計	2018年12月期 第3四半期累計	増減額	増減率 (%)
売上高	38,275	42,632	4,357	11.4
営業利益	2,021	2,465	444	22.0
経常利益	2,051	2,520	469	22.9
四半期純利益	1,426	1,755	329	23.0
1株当たり 四半期純利益 (円 銭)	129.21	158.39	29.18	22.6

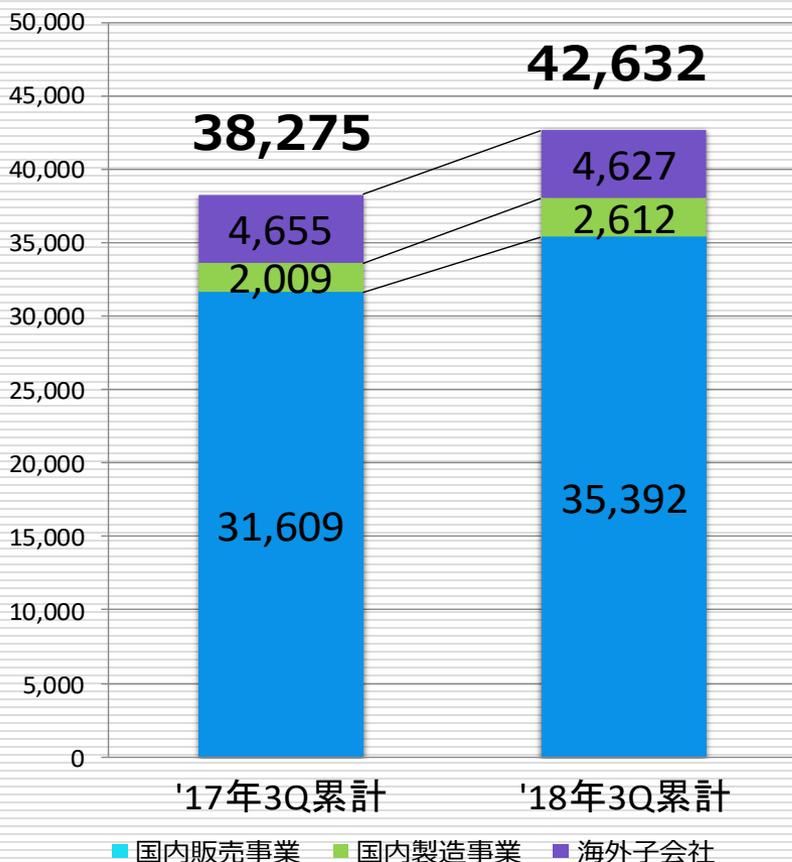
連結財政状態 前期比較

(百万円)	2017年12月期	2018年12月期 第3四半期	増減額
総資産	35,383	37,086	1,703
負債合計	19,890	20,420	530
自己資本	15,489	16,662	1,173
純資産	15,492	16,665	1,172
自己資本比率	43.8	44.9	+1.1Pt
一株当たり純資産 (円 銭)	1,397.97	1,502.85	104.88

報告セグメント別概況推移

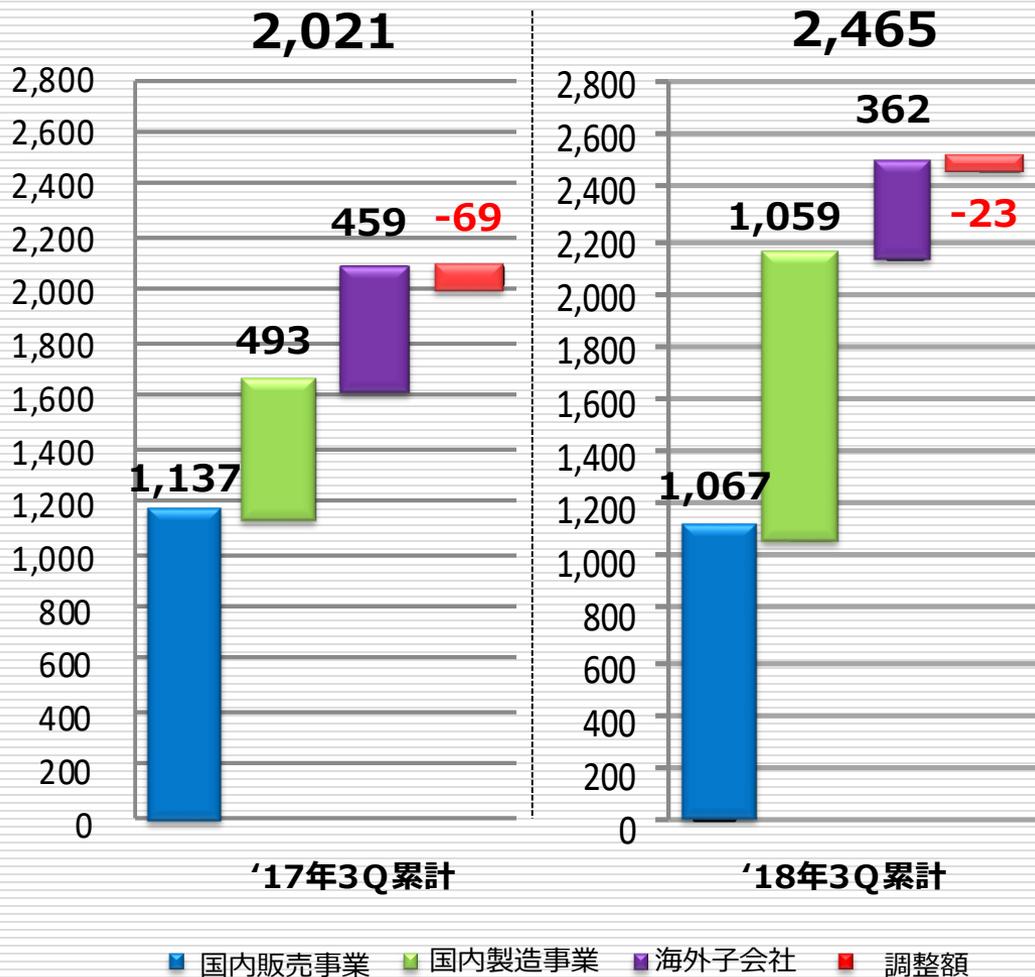
売上

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



(注)セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販管費及び一般管理費です。

報告セグメント別概況

売上

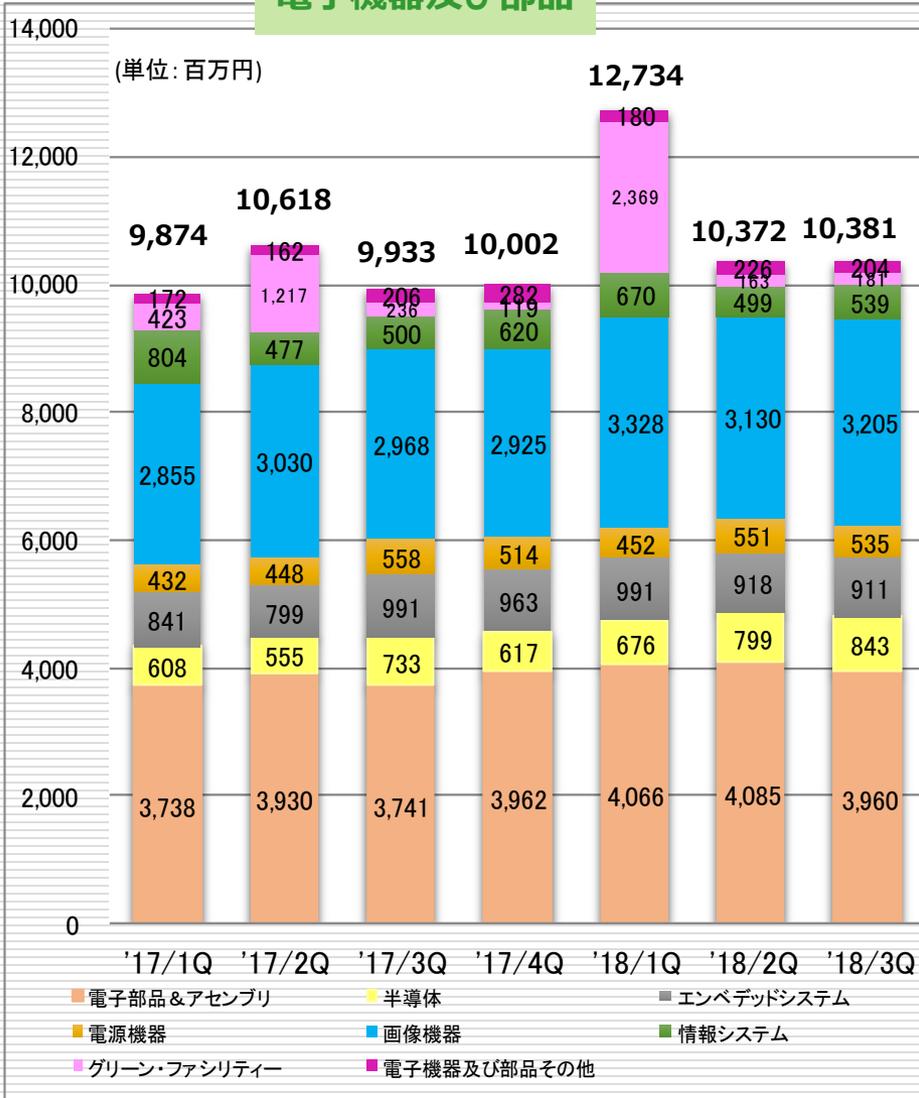
(百万円)	2017年12月期 第3四半期累計	2018年12月期 第3四半期累計	増減額	増減率 (%)
国内販売事業	31,609	35,392	3,783	12.0
国内製造事業	2,009	2,612	603	30.0
海外子会社	4,655	4,627	△28	△0.6

営業利益

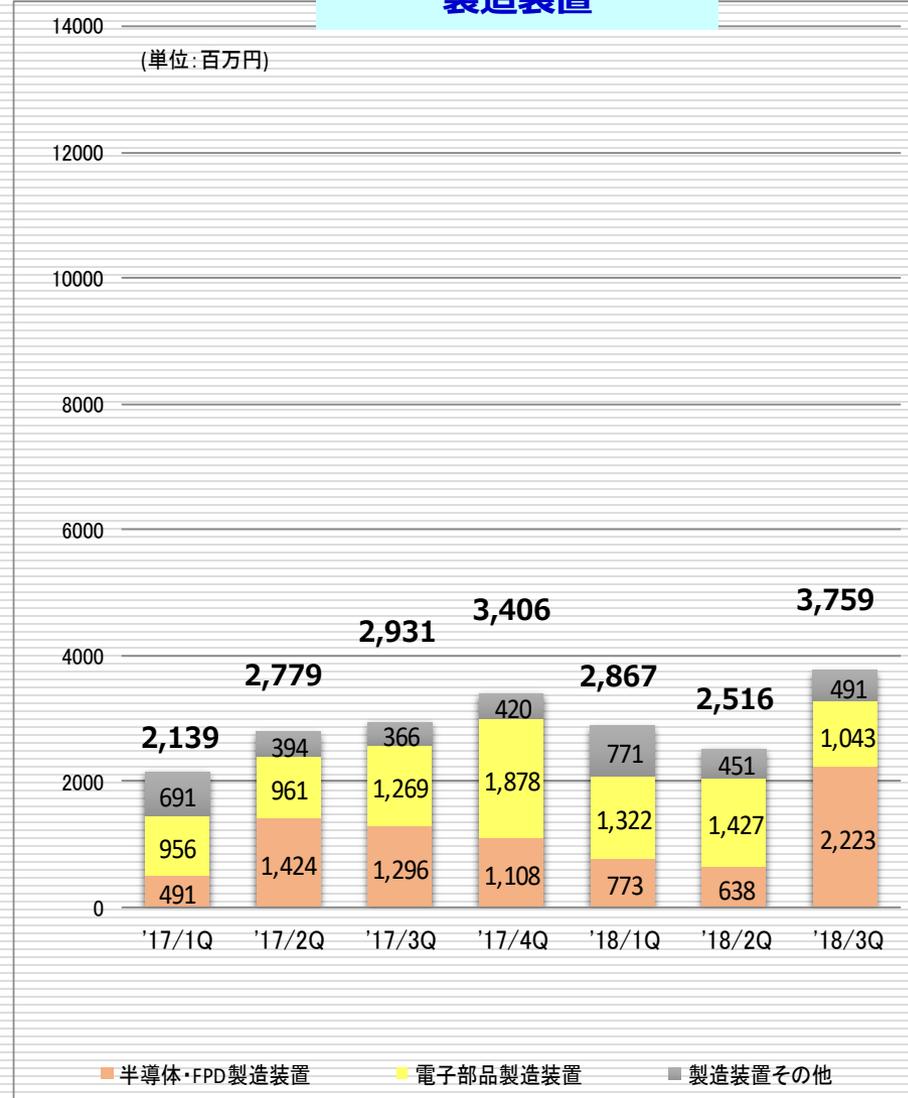
(百万円)	2017年12月期 第3四半期累計	2018年12月期 第3四半期累計	増減額	増減率 (%)
国内販売事業	1,137	1,067	△70	△6.2
国内製造事業	493	1,059	566	114.8
海外子会社	459	362	△97	△21.1
調整額	△69	△23	—	—

商品セグメント 四半期別業績推移

電子機器及び部品



製造装置

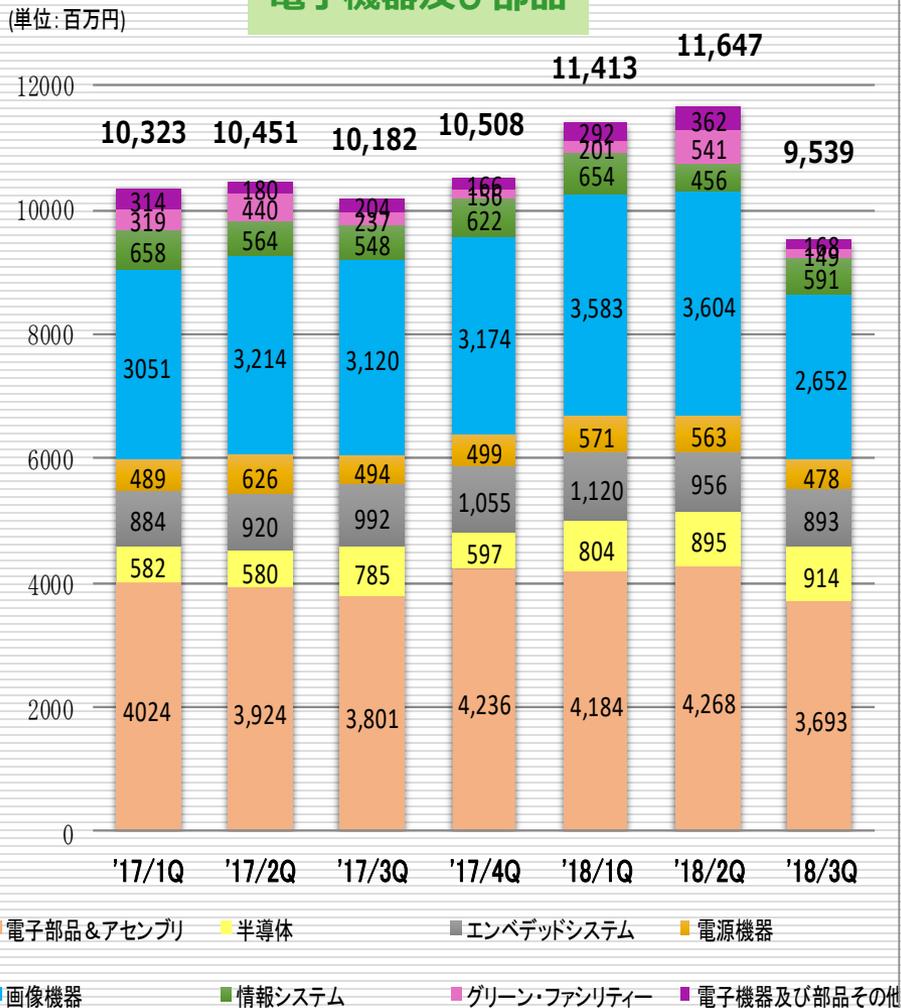


事業	商品セグメント別	売上高構成比	総利益率	オリジナル 製品比率	海外売上比率
電子機器・部品	電子部品 & アセンブリ	28.4% (前年同期 29.8%)	25.5% (前年同期 24.1%)	27.1% (前年同期: 24.3%)	北米 3.3% (前年同期: 3.5%)
	半導体	5.4% (前年同期 5.0%)	19.9% (前年同期 21.8%)		
	エンベデッドシステム	6.6% (前年同期 6.9%)	14.9% (前年同期 15.1%)		
	電源機器 (グリーン・ファシリティー含む)	10.0% (前年同期 8.7%)	16.2% (前年同期 24.6%)		欧州 1.0% (前年同期: 0.3%)
	画像関連機器・部品	22.7% (前年同期 23.1%)	16.6% (前年同期 17.7%)		
	情報システム	4.0% (前年同期 4.7%)	27.1% (前年同期 26.1%)		
	電子機器・部品のその他	1.5% (前年同期 1.4%)	12.4% (前年同期 12.2%)		
製造装置	半導体・FPD製造装置	8.5% (前年同期 8.4%)	19.4% (前年同期 23.3%)		アジア 15.3% (前年同期: 15.1%)
	電子部品製造装置	8.9% (前年同期 8.3%)	36.0% (前年同期 34.8%)		
	製造装置その他	4.0% (前年同期 3.8%)	20.3% (前年同期 13.3%)		
	全 体	100.0%	21.6% (前年同期:22.3%)	27.1% (前年同期:24.3%)	19.7% (前年同期:18.9%)

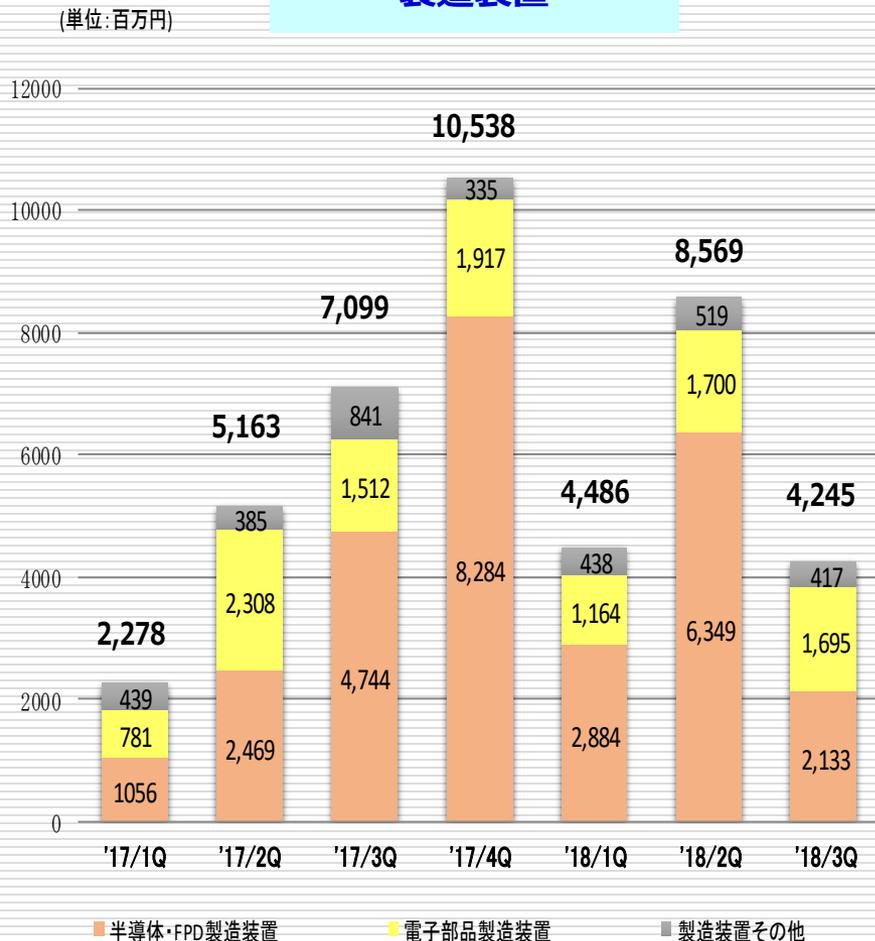
は、当社オリジナル製品を含んだ商品セグメントとなっております。

四半期別 受注高推移 (セグメント別)

電子機器及び部品



製造装置

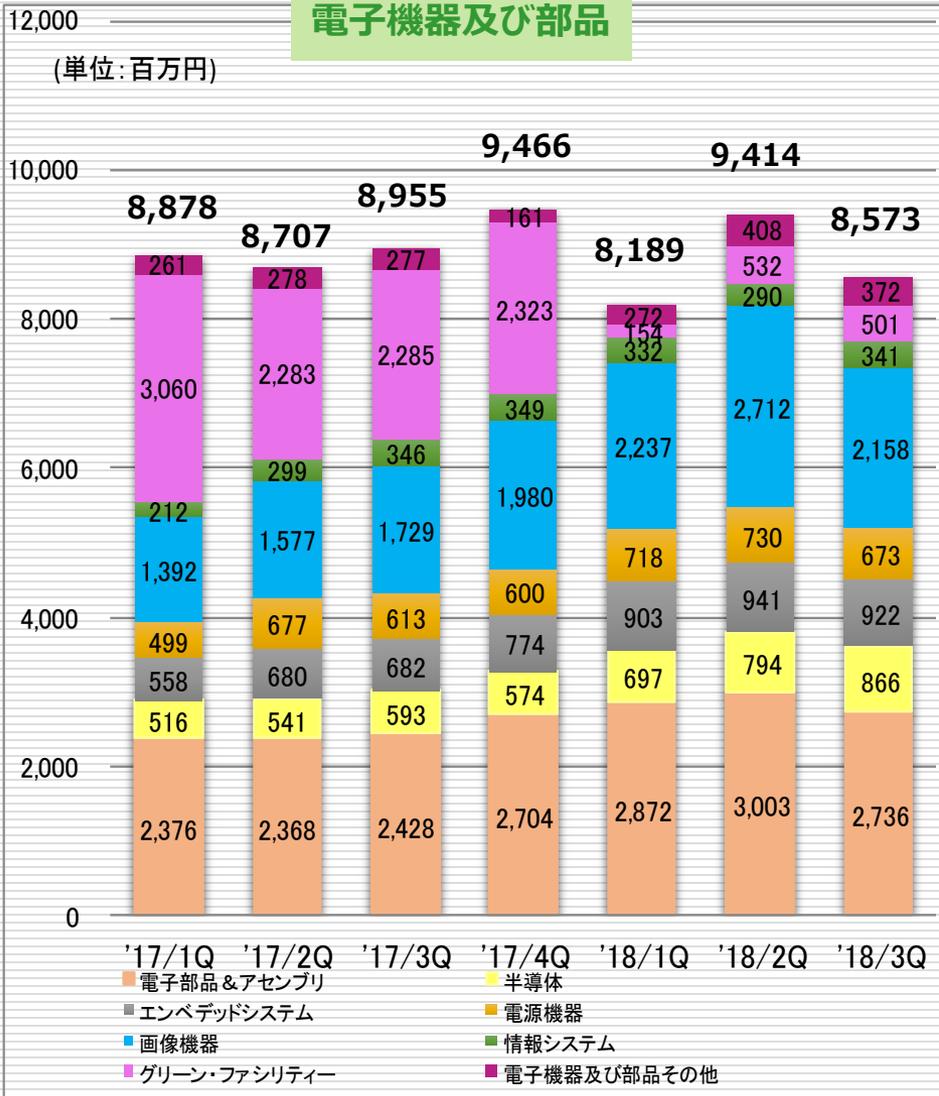


四半期別 受注残高推移

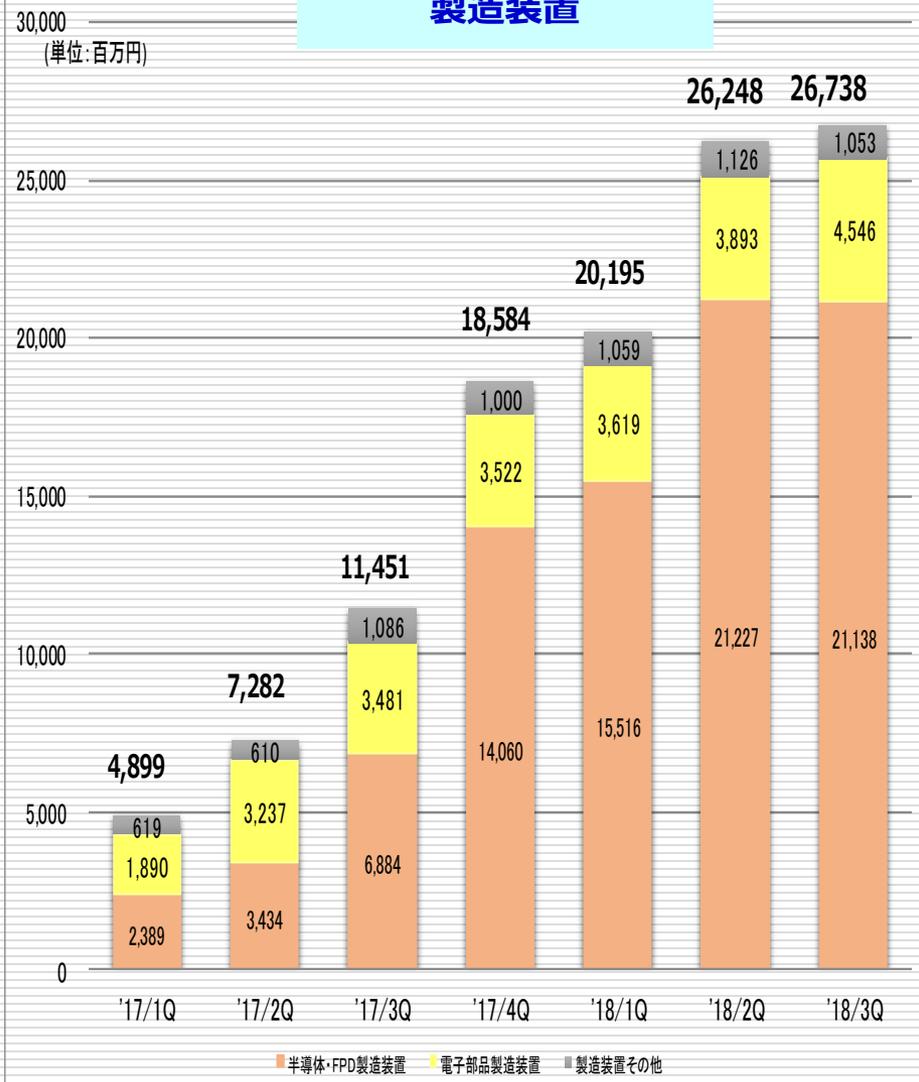
(セグメント別)



電子機器及び部品



製造装置



通期連結業績予想

■ **売上高** **58,500百万円**
 (前年比 113.2%)

■ **営業利益** **3,200百万円**
 (前年比 126.9%)

■ **経常利益** **3,200百万円**
 (前年比 123.9%)

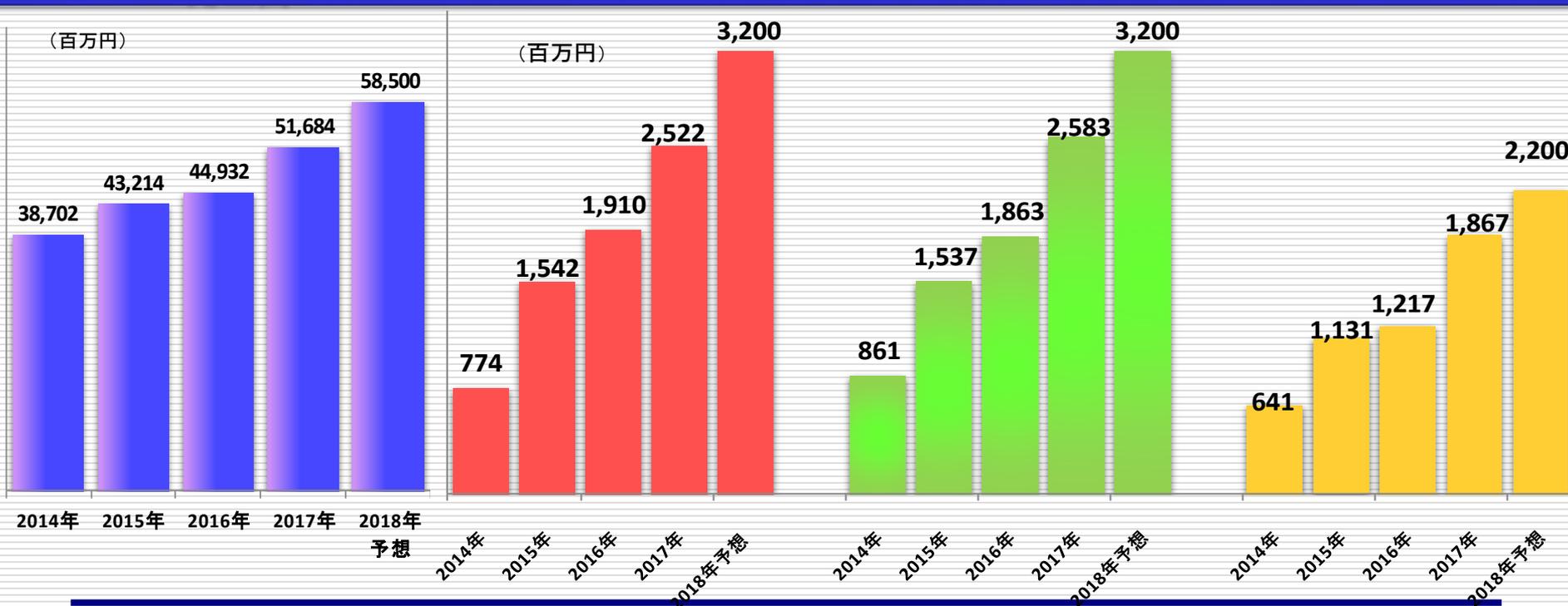
■ **当期純利益** **2,200百万円**
 (前年比 117.8%)

売上高

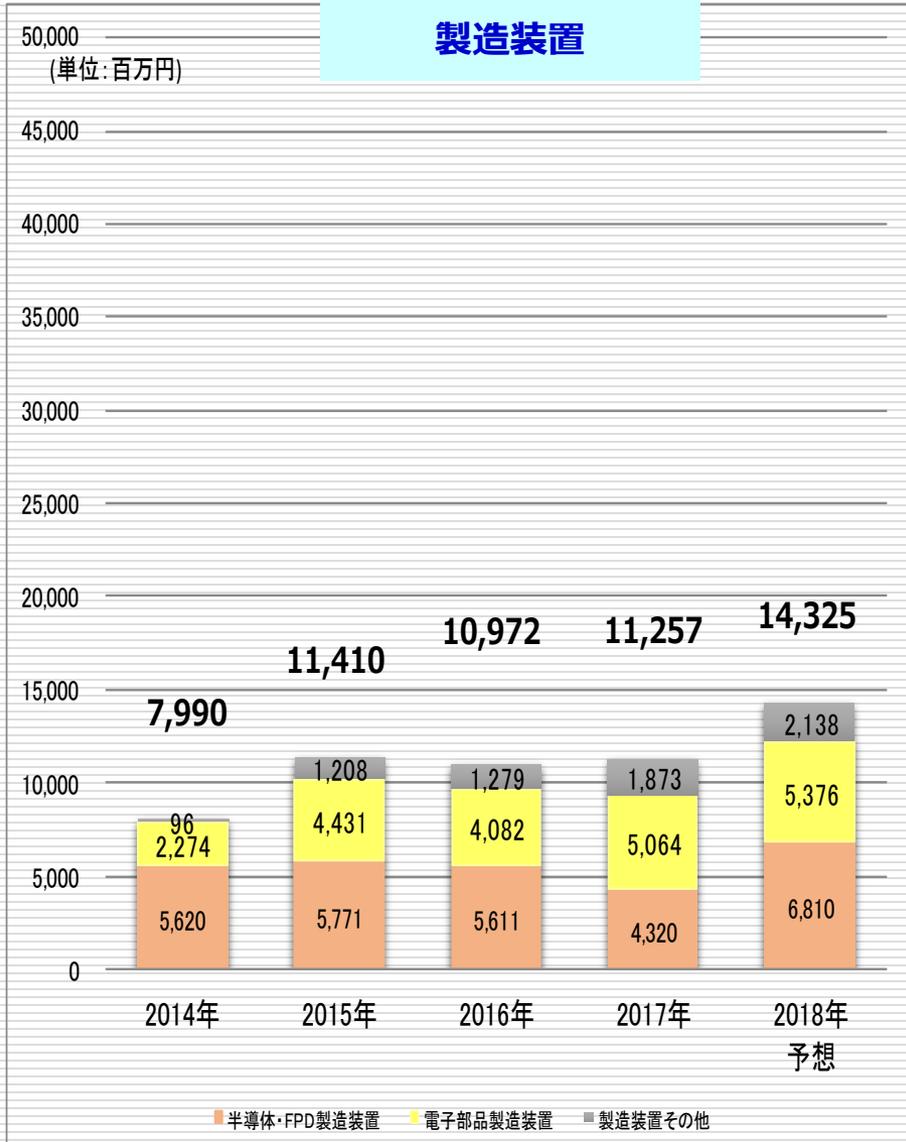
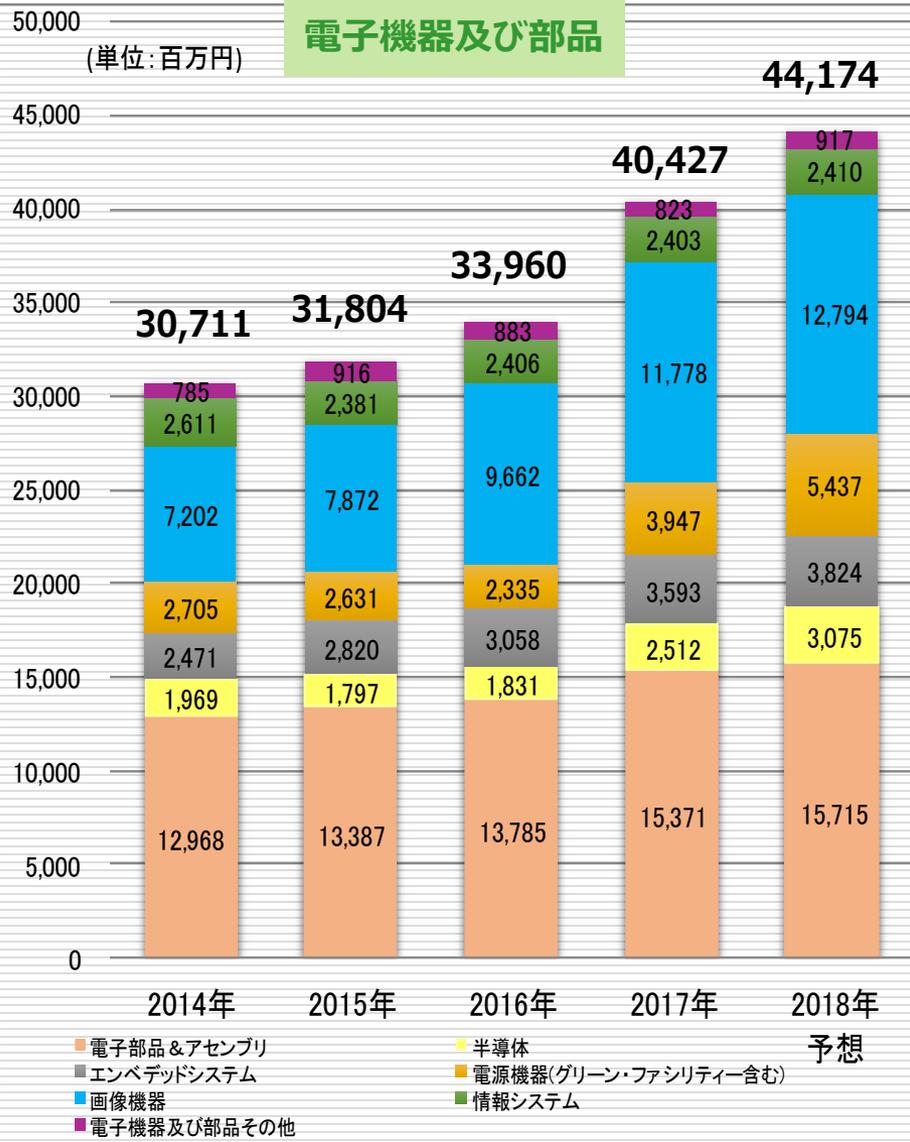
営業利益

経常利益

当期純利益



商品セグメント別業績推移・予想



配 当

	第2四半期末 (中間)	期 末	年間配当 (中間+期末)	当初予想	配当性向
2014年 12月期	0円	15円	15円	5円	26.0%
2015年 12月期	0円	25円	25円	15円	24.5%
2016年 12月期	0円	30円	30円	20円	27.4%
2017年 12月期	15円	30円	45円	30円	26.6%
2018年 12月期 予想	※1 20円	30円	50円	50円	25.2%

※ 2017年12月期より中間配当を実施

※1 2018年12月期 中間配当は実績値です。

第9次中期経営計画(9M)



1 新グループ・ステートメント

Creator for the **NEXT**

エレクトロニクス業界を担う企業として、グループのネットワークを活かし、新しい価値をクリエイトする決意の表明

対外的メッセージ

「グローバルな観点で市場を捉え、お客様ニーズの一步先の価値を創造し、提供する」という意志を表明

社内的メッセージ

「常に次なる事業を創造し、さらなる成長のステージへ挑戦する」というスピリットを表明

N : Network

E : Engineering

X : (Synergy)

T : Trading

2 9Mスローガン

「製販融合路線」により、

更なる成長を目指す

3 目指す姿

● 製販融合の、他に類を見ないユニークな企業

→顧客から見た場合「頼もしく」、仕入れ先から見た場合「安心感」のある

→商社の「ダイナミズム」とメーカーの「可能性・着実性」を併せ持った

● 業界にとって、なくてはならない特徴ある技術・製品を有する企業

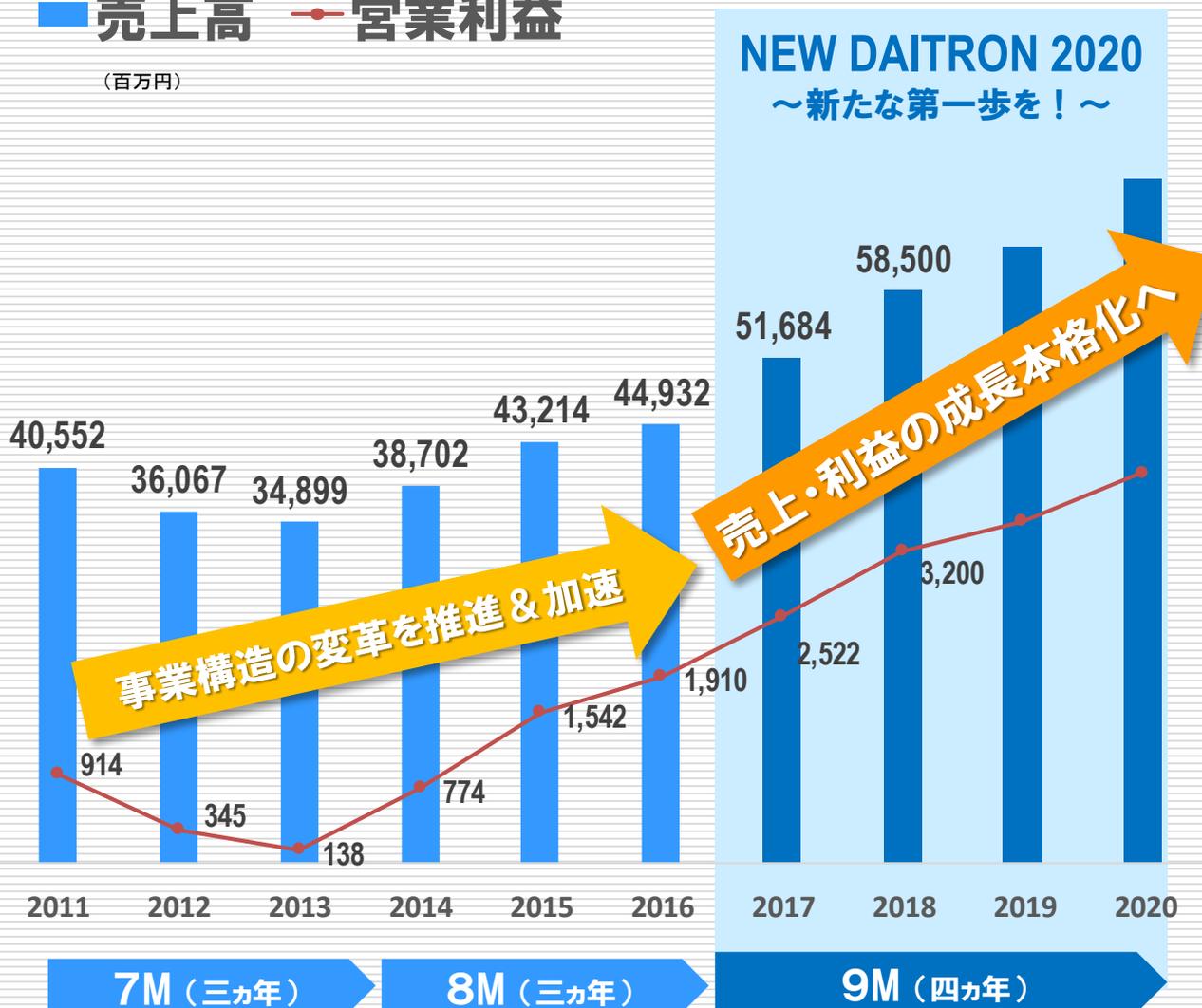
● 社員にとって、働き甲斐があり、誇りに思える企業

● 一致団結の強さと同時に自律能動的に動く組織

1) 数値目標(連結)

■ 売上高 — 営業利益

(百万円)



【2020年 数値目標】

売上・利益の持続的な
成長により
過去最高実績を越えて
更に先の成長を目指す

【目標とする経営指標】

自己資本比率

50%

ROA

4%以上

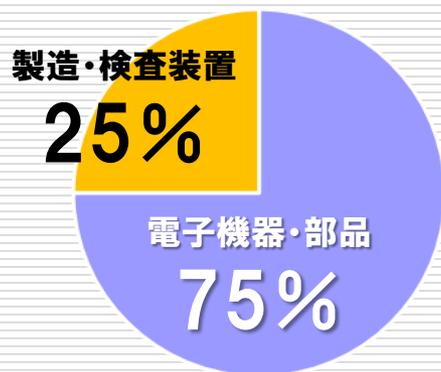
ROE

8%以上

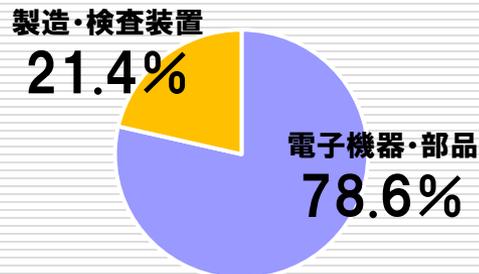
2018年(9M2年目) 2)事業構造の状況(連結) **Daitron**

部門別構成比 (売上高ベース)

【2020年 目標】

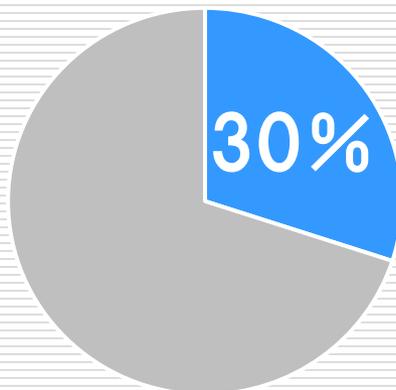


【2018年3Q実績】

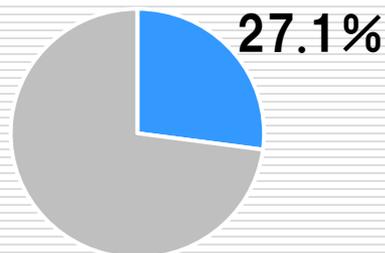


オリジナル製品比率 (売上高ベース)

【2020年 目標】

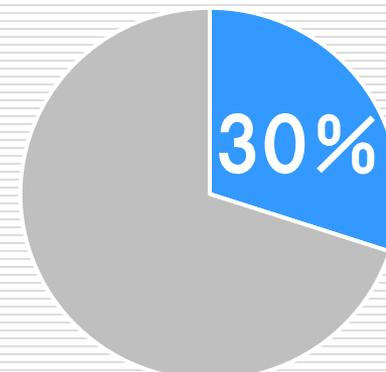


【2018年度3Q 時点】

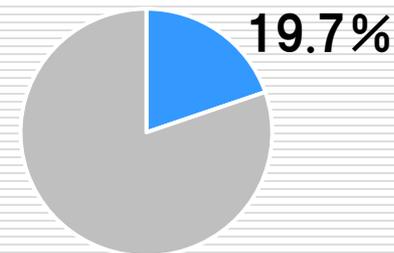


海外事業比率 (売上高ベース)

【2020年 目標】



【2018年3Q 時点】



【基本方針】

**長期ビジョン(基本構想)の実現に向け
製販融合路線を目指す新たな枠組みのもとで
3社統合効果(シナジー)の最大化を図る**



【基本戦略】

- ① **成長性重視の事業再構築を推進**
- ② **オリジナル製品開発の強化**
- ③ **海外ビジネス展開の強化**
- ④ **マーケティング力&営業力の向上**
- ⑤ **生産部門の統合強化**
- ⑥ **組織力&人材力の強化**

2018年(9M2年目)における各基本戦略のポイント ①

1. 成長性重視の事業再構築を推進

- (1) オートモーティブ → ADAS、EV関連での事業拡大
- (2) メディカル → 製薬業界、消耗品関連の事業拡大
- (3) ロボティクス → 市場拡大・グローバル化への対応

2. オリジナル製品開発の強化

- (1) 独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ
- (2) 仕入先との連携強化によるラインナップの充実
- (3) ダイトテック株式会社の立ち上げ

3. 海外ビジネス展開の強化

- (1) 海外事業本部(独立組織)設置によりグローバル化を更に推進

2018年(9M2年目)における各基本戦略のポイント ②

4. マーケティング力 & 営業力の向上

- (1) 汎用半導体の取り扱い拡大により、顧客の企画・設計段階からダイトロン全取扱商品の提案を推進し、売り上げ規模や顧客層の拡充を図る

5. 生産部門の統合強化

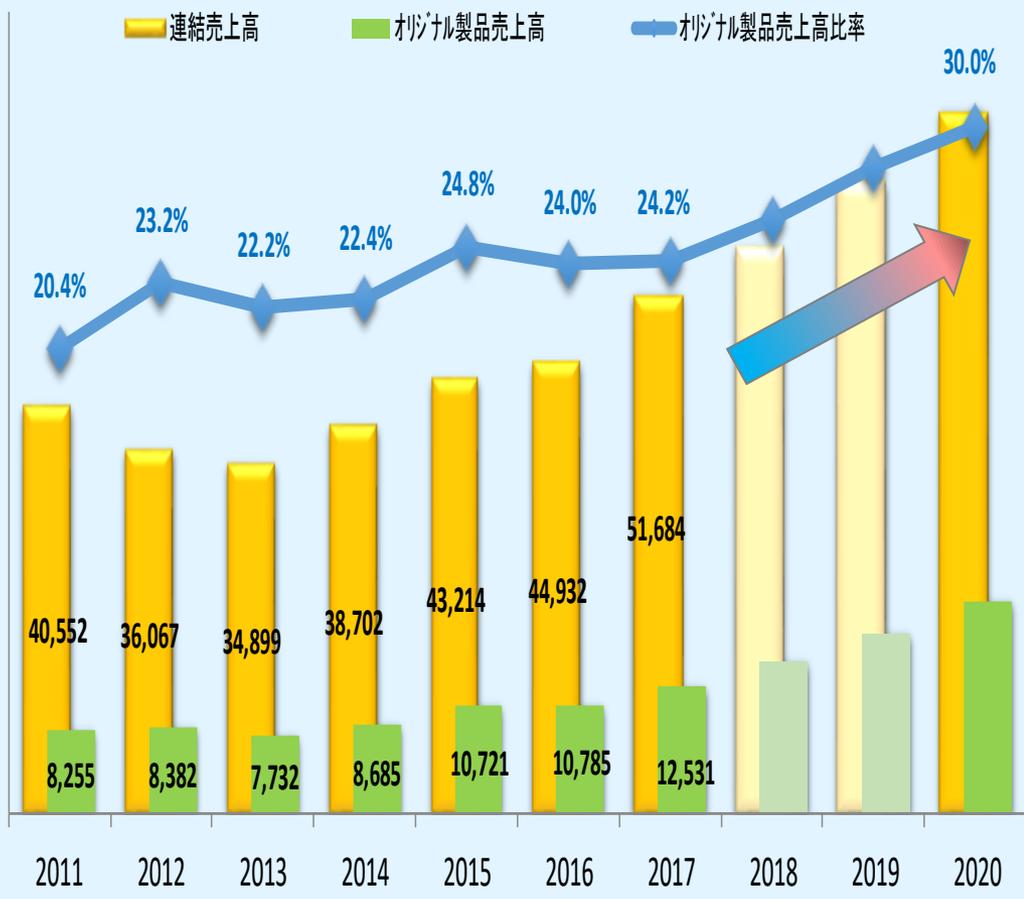
- (1) 中部第一工場 各事業(電源、航空機、車両、自動車)の早期収益化
- (2) 中部第二工場の竣工、稼働

6. 組織力 & 人材力の強化

- (1) ジョブローテーション、キャリアパス制度により人材育成や活性化を図る
- (2) リスクマネジメントの強化

【基本戦略①】オリジナル製品開発の強化

単位(百万円)



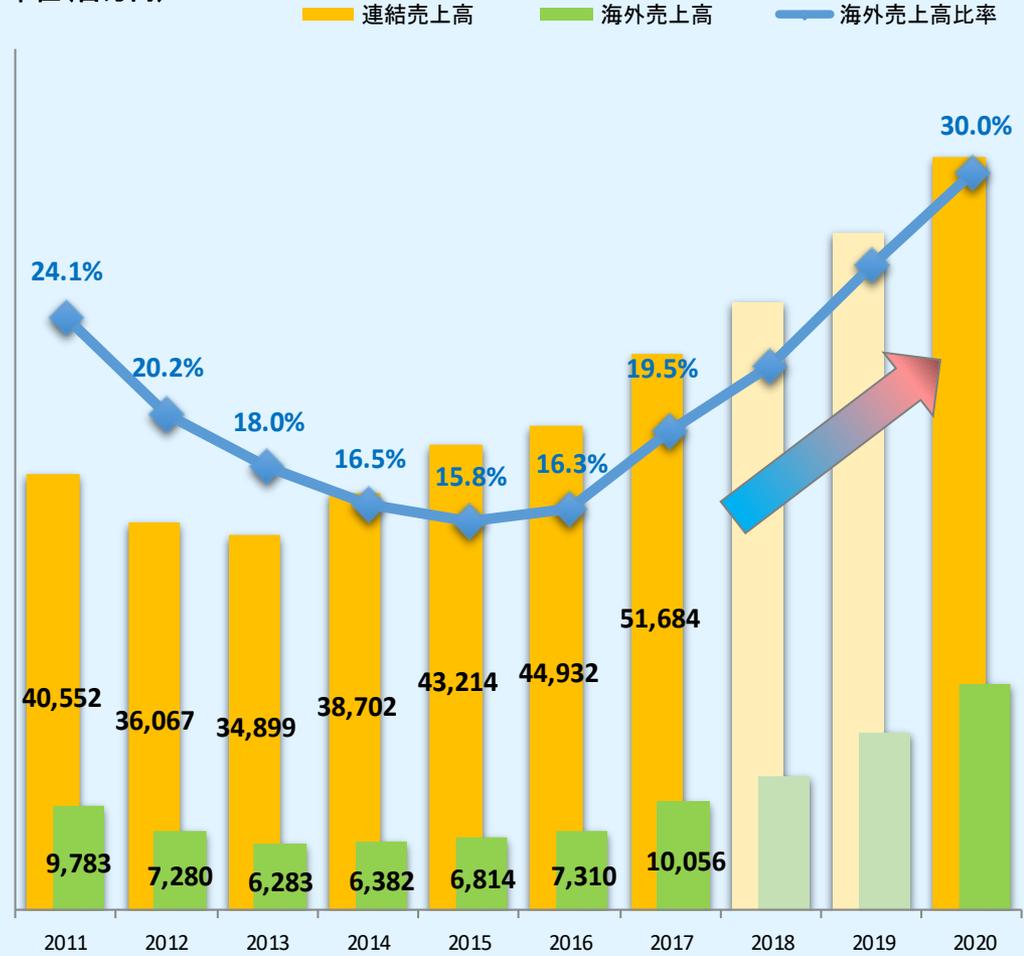
オリジナル製品比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

戦略ポイント

- ① 独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ
- ② 仕入先との連携強化によるラインナップの充実
- ③ ダイトテック株式会社の立ち上げ

【基本戦略②】海外ビジネス展開の強化

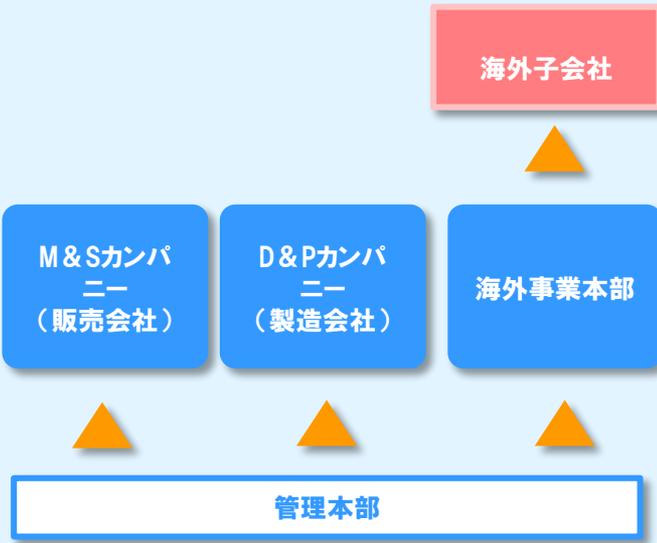
単位(百万円)



海外売上高比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

戦略ポイント

・海外事業本部(独立組織)設置によりグローバル化を更に推進



戦略
ポイント
1

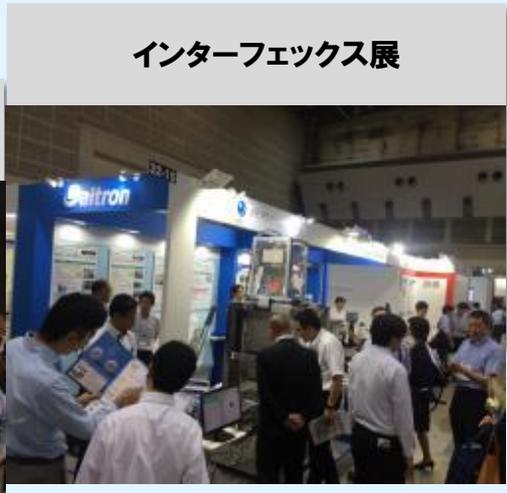
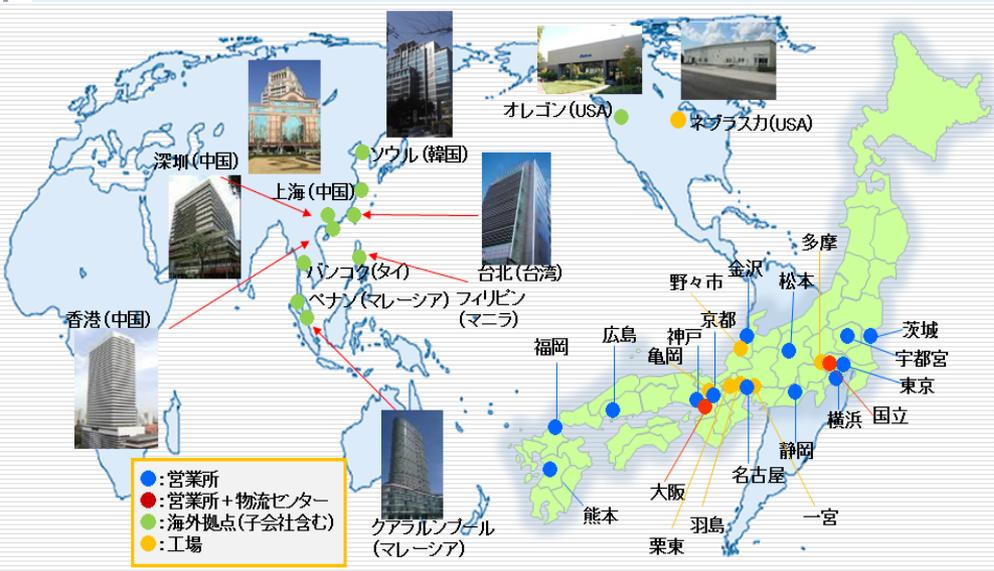
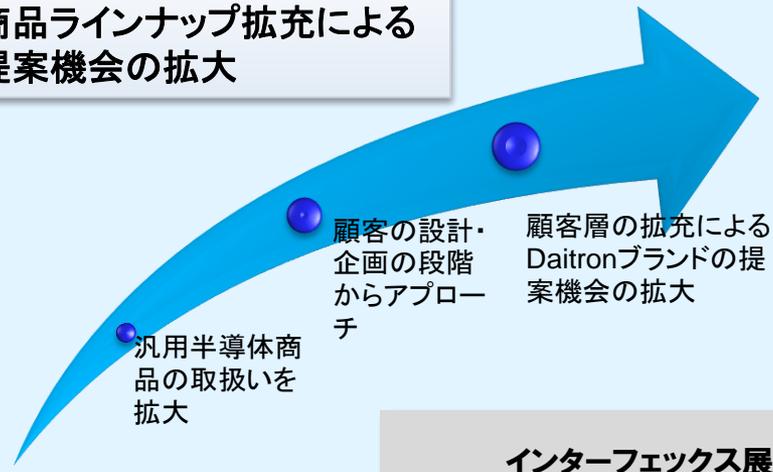
国内外における
販売ネットワーク拡充

- 【国内】 ● 東北地方 ● 四国地方 など
- 【海外】 ● ベトナム ● インド ● 欧州 など

戦略
ポイント
2

既存市場における
プレゼンス向上

商品ラインナップ拡充による
提案機会の拡大



中部工場 (愛知県一宮市)

ダイトングループの
基幹工場として新設



製造と開発の 中核拠点へ



2018年 第2工場建設完成予定

(1) 中部第一工場 各事業(電源、航空機、車両、自動車)の生産拡大

(2) 中部第二工場の竣工、稼働

- 【第一工場】電子機器・部品関連生産体制
⇒ 2016年11月～稼働
- 【第二工場】装置関連生産体制
⇒ 2018年度内の完成見込



中部第二工場完成予想図

技術で立つ会社へ

新生・ダイترونグループは、

3社統合効果の最大化により、

製販融合路線による

エレクトロニクス業界の技術立社として、

独自の進化を目指してまいります。

この資料で述べられている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。

当社が位置するエレクトロニクス業界の電子機器・部品産業並びに製造装置産業は、テクノロジーの変化やスピードが大変速く、競争の激しい産業です。また、北米やアジア諸国の経済情勢など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

従いまして、今後、当社の業績の見通しが本資料と異なる可能性があることをお含みおき下さい。

《本資料並びにIRに関するお問い合わせ先》

経営システム部 広報・IR担当

TEL : 06-6399-5952

FAX : 06-6399-5962

e-mail : kouhou@daitron.co.jp